

戦没した兄・高木多嘉雄を語る―新谷照氏・吉川美氏に聞く―

望月雅士

はじめに

当センターでは二〇一三年度春季企画展として、「ペンから剣へ―学徒出陣七〇年展―」を開催した。同展では、戦没した学徒のひとりとして高木多嘉雄さんを取り上げ、遺書や遺品を展示した。今回、企画展で高木さんを取り上げたことを機に、ご令妹である新谷照氏と吉川美氏に、高木さんの学徒出陣時の思い出について語っていただいた。高木さんの遺品類と関係資料は、二〇〇六年、および二〇一三年に新谷氏から当センターにご寄贈いただいたが、末尾の目録はそのうち二〇〇六年度寄贈分のものである。なお、高木多嘉雄さんの履歴は以下の通りである。



高木多嘉雄

- 一九二二年 一月 八日 東京府生
- 一九三九年 三月 東京府立第九中学校卒業（現・東京都立北園高等学校）
- 一九四〇年 四月 一日 第二早稲田高等学院入学
- 一九四二年 四月 一日 早稲田大学政治経済学部入学（一九四四年九月二五日卒業）
- 一九四三年 二月 一日 東部第六部隊入営
- 一九四四年 五月 一日 前橋陸軍予備士官学校入校
- 一九四四年 九月 二七日 第十四方面軍教育隊転属
- 一九四四年 十一月 二日 フィリピン・マニラ着
- 一九四五年 一月 三二日 見習士官任官
- 一九四五年 二月 一八日 第十四方面軍教育隊卒業 第十九師団転属
- 一九四五年 三月 三〇日 フィリピン・ルソン島キャンガンにて戦死（靖国神社「祭神之記」による。なお、『前橋陸軍予備士官学校第十一期生記録及名簿』では、一九四五年三月二〇日ルソン島ソラノで戦死とある）

備士官学校第十一期生記録及名簿』では、一九四五年三月二〇日ルソン島ソラノで戦死とある）

戦没した兄・高木多嘉雄を語る

二〇一三年五月二十四日 早稲田大学早稲田キャンパス二号館津田記念室

出席者 新谷 照氏

吉川 美氏

〈司会 望月雅士 関口直佑〉

一 家族

——では、始めさせていただきます。本日は本学政治経済学部在学中に学徒出陣で陸軍に入営し、昭和二〇年三月にフィリピンで戦死された高木多嘉雄さんについて、実妹である新谷さんと吉川さんにお越しいただき、お話しを伺いたいと思います。

まず、お生まれはどちらでしょうか。

新谷 東京の王子です。今の王子本町です。

——ご家族は。

新谷 両親と兄弟が五人です。一番上に姉がおりましたが、昭和二〇年六月六日に二七歳で亡くなりました。その下

が多嘉雄兄で、もう一人兄がその下におりましたが、三年前に亡くなりました。そして私と妹の美と続きます。

——新谷さんの生年月日を教えてくださいませんか。

新谷 昭和四年五月八日です。

——吉川さんは。

吉川 私は、昭和八年四月八日です。

——多嘉雄さんは、府立第九中学を卒業後、早稲田第二高等学院に入学されますが、なぜ早稲田に進学されたのでしょうか。

新谷 父が早稲田を好きだったんです。自分も早稲田に行きたかったらしいの。ところが家の事情で、大学へは進学できなかつたそうです。

二 学徒出陣

——では、学徒出陣の時の思い出をお願いしますか。

新谷 いよいよ学徒出陣ということになり、学生が軍人になる時が来たのですが、出陣までの数日間、兄は人が変わったようになって、厳しい顔つきになりました。両親はもちろん、妹の私も苦しい日々を送ったことを記憶しています。父は家宝の刀を研ぎに出し、床の間に飾っていました。

出陣の日が近づくにつれ、母は毎日五右衛門風呂を沸かし、兄の背中を流しながら話をしていましたが、母の胸の内の苦しさが私にも伝わってきました。

昭和一八年一月一日、王子神社で出陣式を行いました。父は行きましたが、母は行きませんでした。気丈な人でしたが、行かなかったのです。出陣する長男に涙を見せたくなかったのでしょう。涙を見せたら非国民と言われる時代でしたから。母の胸中を思うと、今でも苦しくなります。

——新谷さんは王子神社へは行かれたのですか。

新谷 行きました。旗を持って。あの頃は、「天に代わりて……」なんていう歌を歌いながら、行進しました。王子の子ども町内に学徒出陣の方が三人いらしたの。お一人が駒崎省三さんで、やはり早稲田の方でした。駒崎さんと兄とは子供の頃からの親友で、出陣する前に最後に二人で三原山に登ったそうです。

空襲で焼ける前の王子神社にりっぱな山門がありました。その山門の前で三人並んで出征の挨拶をしました。私はずっと後ろの方で見えていました。すると兄が、「僕は高木多嘉雄です。高木多嘉雄っていう名前なのに、背は低いです」って。三人並んだ中で一番背が低かったの。それでね、「私が代表して挨拶をさせていただきます。私たちはこれから出征しますが、銃後も油断はできません。今度の戦争は神風の吹くような戦争ではありません。大変な戦争です。銃後の方も、どうかしっかりとお願いします」と言ったのです。そうしたら、みんな驚いちゃったわけです。神風が吹いてね、日本は勝つと皆信じていましたから。私もまさか、日本本土が空襲されるとは思ってもいませんでした。その中に酒屋の三河屋のおじいちゃんがいたのですが、戦後、そのおじいちゃんが私の顔を見るたびに、「高木さんのお兄さんはすごいことを言ったなあ。ほんとに戦場になっちゃったなあ」と言っていました。あれからすぐ王子のあたりにも焼夷弾がどんどん落とされて、王子神社も焼けたのです。

——ここに、ご寄贈いただいたお兄様の日章旗があります。こちらに名前の書かれている方たちは、どのような方ですか。

吉川 親戚ですね。

新谷 ほとんど親戚です。

——親戚ですか。

新谷 三浦勝つていう人はお医者様。今でもお宅がありますけど。

吉川 それから、あと家作の方々の名前もありますね。

新谷 うちの家作に住んでる方。

吉川 あと、お母さんの兄弟。

新谷 高木福吉は父の弟ですね。次は、醍醐何って書いてありますか。

——與四郎ですね。

新谷 この人は、区会議員です。醍醐三佐次って書いてあるのが、よく岩井の海岸で、いつも兄と一緒に泳いでた人です。だから、ほとんど親戚の方が多いです、母方の。

——では、この日章旗を一二月一日の当日は襷掛けにして。

新谷 そうですね。それで、東部第六部隊に面会に行った時に、もうこれは要らないって返されたのです。父は大事に大事にして、その日章旗をトランクの中へ入れたの。

三 東部第六部隊時代

——東部第六部隊に面会に行かれた時は、いかがでしたか？

吉川 大勢の兵隊さんが見張っていて、怖いところでしたよ。ちよつとでも怪しいと、「ちよつとちよつと」って言われて。兵隊さん、すごく威張っていました。

新谷 その面会するのも、大変なの。まず名前を書いて、誰と誰が来てますと書いて出すわけ、受付に。そうすると、兄に面会できる時間があるわけ、何分かね。それで、兄がそろそろかなと思つたら、また兄の声がよく響くんです。「高木多嘉雄」と、大きな声で。

それで、ちよつと話しをして、「トイレに行く」って言って、みんなで一緒にくっついていくのです。父はいつもトイレの前で、「今、使つてます。すいません」って。

——何をやっているのですか。

新谷 食べ物を届けていたのです。おはぎの時もありましたが、カツが一番多かったですね。兄の大好物でしたから。——どうやって持つて行くのですか。

吉川 薄くスライスして。

新谷 父は和服で、二重回しを着ていて、その下に隠していたらしいの。でも、見つかつて。でもね、取られたくないから、「じゃあ、帰ります」って、いったん帰るの。外へ出るのね。

——それで帰るわけですか。

新谷 そうじゃないの。六部隊のご近所の方が親切なのよ。「ちよつとこつちへ来て。わからないようにしてあげる」って。それでまた出直して行くんです。そのまま帰りはしません。だって、やっぱり食べさせたいから。

吉川 ちゃんと近所の人達もわかっているんですよ。「いいですよ、やってあげますよ」って。家の中に入れてわからないように直してくれるのです。

新谷 気の毒だからね。

吉川 そういう人が、ちゃんと親切にやってくれてたんですよ。だから今思うと、あの方たち、どこにいらっしやるのかと思いますよ。それで、わからないようにしてもう一回行って、一回出たけど、どうしても会いたいんだから、入れてくださいって言って、頼んで入れてもらうのです。私も小さいながらも一所懸命言って、「もう一回だけ入れてください。お願いします、お願いします」って。

新谷 兵隊さんを拝むようでしたよ。

——そうして、おはぎやカツを渡すのですか。

新谷 おはぎを薄くして、帯に巻くのです。さらしを用意しておいて、そこに薄いおはぎを並べて。嘘みたいでしょ。それで兄に自然にそつと渡して、外の便所へ入れちゃうわけです。鳥小屋みたいな小さな小さな便所で。

——便所のなかで食べるわけですか。

新谷 便所の前で、父は番をしているわけ。もう次の人が待っているのですから。この方も食べるために便所に入る人なので、父は悲痛な顔をして、「今、使ってますから、すいません」って謝りながら。それで、食べ終わったカスは、そつと父に渡して。

四 前橋陸軍予備士官学校時代

吉川 昭和一九年に入ると、私は学童疎開で群馬県の下仁田におりました。それで母たちが迎えに来まして。

新谷 私と母が迎えに行ったの、下仁田へ。

——昭和一九年の九月に、お兄様は前橋陸軍予備士官学校から戦地のフィリピンに向かわれます。

新谷 その時のことです。父は先に前橋に行きまして。汽車で行くのですが、切符が買えないのよ。それで切符を闇で買って。お米もお砂糖も、闇だったの。そのために母は懸命に闇で着物や帯と取り換えて、時計や指輪とも交換してましたよ。そうして兄のために、さっきのおはぎなんかを作るのです。私たちには、とても食べさせてもらえませんが。吉川 母たちと前橋に行ったのですが、おまえももう多嘉雄に会うことはないから、最後だからって言われました。兄に会うと、「ありがとう。もうほんとに最後だからね、最後だからね」と言っていました。「お母さん、お父さんを大切にしてくね、大切にしてくね」、それを何回も言われたことを覚えています。まだ、こんな小さかった子供にね。この言葉だけは、今でも私の頭に残っています。

新谷 面会に行っても、ごちゃごちゃしている中で会うのです。兄は父に、今度は南方に行くって話したらしいの。南方に行けば、もう帰ってこれないと、父に話したそうです。実は中野学校へ行くようにとの推薦の話もあったようですが、兄は長男としての義務があるというので断ったそうなのです。

吉川 戸籍の問題らしいですね。

新谷 籍を抜くということが、兄には堪えられないことだったそうです。高木家を継ぐという意識が強かったのですから。両親もそれを期待していましたし。兄が中野学校を断ったので、別の方が中野へ行くことになったのだそうですが、その方は戦後、弁護士になったと聞きました。

——前橋の面会は何回行かれたのですか。

新谷 四、五回行きました。

吉川 私は疎開してましたから、最後の一回だけです。

——面会した時のお兄様の様子はどうでしたか。

新谷 普段の兄とは全然違いましたよ。怖い感じでした、目つきからして。

吉川 話し方から何から、軍隊式な話し方。

新谷 それで予備士官学校から前橋だったか、高崎だったか、どこかの駅まで行進していくのです。私たちはそれを見送るわけなのですが、先頭で軍旗を持って歩いてきたのが兄でした。

それで博多まで列車で行って、船に乗ってフィリピンまで行くことになるのですが、なかなか船が出発できなかったそうです。その時に送って来たのが、この間の「ペンから剣へ」展でも出していただいた写真です。魚雷攻撃がすごくて、家では「ご無事で、ご無事で」っていうことばかり祈って、祈って、本当に神頼みでした。

吉川 フィリピンまでたどり着いただけでも、ありがたいことなのだそうです。

五 戦死、そして戦後

——お兄様が出征された後のご家族の様子はいかがでしたか。

新谷 多嘉雄兄に続いて、次兄が昭和一九年一二月に入営しました。そのため王子の我が家は両親と私だけの生活になりました。父は和服から洋服になり、町会に行っていました。母は暗い電気の下で、縫物をしていたのを記憶しています。二〇年三月に軍の方が来て、当時私の家は三〇〇坪の広さで、自宅の他に一三軒の貸家もありましたが、それらを全部壊すというのです。父はそれとても悲しんで、兄の机の整理をはじめ、必要と思つたものはトランクに入れて、親戚に引越したのです。兄の遺書はその机の中に入っていました。私が今でも覚えていますのは、机の引

き出しの奥に、『風と共に去りぬ』の本が四冊あったことです。父はそれをトランクに入れなかったのですが、アメリカの本だったからではないでしょうか。その他に岩波文庫などもたくさんあったのですが、今思うと残念でなりません。

——お兄様の戦死は、いつお知りになりましたか。

新谷 終戦の翌年、二一年の三月二〇日に区役所から届きました。

——八月一五日に終戦となつて、すぐにわかつたわけではないですね。

新谷 すぐではなかつたのです。ですから母は終戦後、糸にボタンをつけて、兄の写真の上で、「多嘉雄、帰ってくるんだよ」、「多嘉雄、帰ってくるんだよ。待つてるよ」と言いながら。するとボタンがクルクルと回つて、「あ、やっぱり生きてるんだ」、「あ、これは生きてる証拠だ」つて、そういう迷信みたいなことを毎日毎日やっていました。「帰ってくる、帰ってくる」つて、念じていたんでしょう。

——戦死の公報が届いて、お父様、お母様の様子はどうでしたか。

新谷 もうそれは、落ち込んで。父は、兄が戦死したつて聞いて、「犬死だ」つて言いました。もう一所懸命、大事に大事に育てた息子でしたからね。

吉川 兄だけは、兄弟のなかでも特別でしたものね。フィリピンへ行ったのは、いつ頃だったかしら。

新谷 二〇年は経つわね。兄と前橋の予備士官学校からの同期で、フィリピンと一緒に逃げていた戦友が生きていて、二〇年位前に現地に連れて行つてもらつたことがあるのです。兄が撃たれたところは、こちら辺つて、その方に教えてもらいました。

吉川 畑の中でしたね。ソラノという所だったわね。

——靖国神社の「祭神之記」には、キャンガンで戦死ということになっていますが。

新谷 ソラノという所でした。

——戦死された時のお話はありましたか。

新谷 その時のことは私には苦しくてあまり詳しくは聞かなかったのですが、フィリピンでは、兄と三人で北へ北へと進んでいったのだそうです。昼は穴のようなものを掘って隠れていて、夜間に移動するのだそうです。アメリカ軍の戦闘機に見つからないように。でも、お腹も空くのでしよう、若いから。畑に芋か何かを盗りに行ったのだそうです。

吉川 その時に、アメリカ軍の戦闘機があらわれて、すぐに逃げるのですが、機銃掃射であと一歩というところで撃たれたと聞きました。兄は逃げ遅れて、足を撃たれたのだそうです。

——足を撃たれたのですか。即死ではなかったのですか。

新谷 即死に近かったと聞きましたが。足を撃たれて出血多量だったとか。だけど、戦友たちに早く先に行けって言ったのだそうです。兄のものを、ペン一本でも持ってこられる状況ではなかったと言っていました。だから、この戦友の方が、「ごめんなさい、ごめんなさい」って私におっしゃってくださいるのですけど、この方ももう亡くなられました。

——写真を拝見しますと山岳地帯ですね。

吉川 山のずっと奥でした。

新谷 このフィリピンへは次兄も一緒に行ったのですが、兄が亡くなったという場所に立って兄が好きだった唄を歌い、「兄貴、聞こえるか」と叫んでいたのを覚えています。

——ご自宅が戦災に遭われたそうですが、よくお兄様のご遺品が残りましたね。

新谷 東京の空襲がある前に、父が兄の所有物をトランクに入れて、板橋の別宅に置いて助かりました。戦後は、高木家の墓地に、兄の供養塔を建てました。

——それはお父様が建てられたのですか。

新谷 いえ、母が建てました。かわいそうだからって。

——ご両親様は、靖国神社へ行かれましたか？

新谷 母は毎年行っていました。でも、父はあまり行かなかったですね。一度位でしょうか。こうして、ご縁があって兄の遺品を母校の早稲田大学に寄贈できて、親孝行できたと思っています。

——今日は貴重なお話をありがとうございました。

新谷照氏寄贈 高木多嘉雄資料(二〇〇六年度寄贈分)

No.	資料名	日付	作成・差出	宛先	数量	備考
17	『経済政策』(ノート)		高木多嘉雄		1冊	
16	『欧米政治組織』(ノート)		高木多嘉雄		1冊	
15	『行政学』(ノート)		高木多嘉雄		1冊	
14	(Waseda) 写真アルバム				1冊	写真スクラップ、76枚
13	(Waseda) 写真アルバム				1冊	写真スクラップ、25枚
12	『第七回卒業記念 東京府立第九中学校』(卒業アルバム)	昭和一四年三月			1冊	巻末に「在校五ヶ年間の主なる行事」の年譜あり
11	(製図ノート)	(昭和二一年度)	4年E組高木多嘉雄		1冊	
10	(製図ノート)	(昭和二一年度)	4年E組高木多嘉雄		1冊	
9	『国語 徒然草2』(ノート)	(昭和二一年度)	東京府立第九中学校 第4学年E組二十三 番高木多嘉雄		1冊	
8	写真(中学校四年、高木多嘉雄、十六歳)	昭和二二年七月			1枚	台紙付
7	写真(府立第九中学校第一学年E組、立姿勢右ヨリ七番目ガ小生デス)				1枚	別紙(先生・友人の名前のメモ) 25枚あり
6	写真(鎌倉遠足、小学校六年、舟二乗ッテキル前列右ヨリ二人目)				1枚	台紙付
5	写真(佐倉宗吾郎ヲ尋ネテ、小学校五年、立姿勢右ヨリ六番目ガ小生)				1枚	台紙付
4	写真(二番目ガ小生、小学生四年、十条ノ写真屋サンニ於テ)				1枚	台紙付
3	写真(豊島園ニ遊ブ、小学生三年生、三列左ヨリ八番目ガ小生)				1枚	台紙付
2	写真(吉田満代・高木多嘉雄)				1枚	台紙付
1	写真(真中ガ小生、当年五才)	大正一三年二月五日			1枚	台紙付

21 1	21 0	20 9	20 8	20 7	20 6	20 5	20 4	20 3	20 2	20 1	20 0	19	18
教練検定合格証明書	高木多嘉雄兄上古き書	写真(軍服姿の集合写真)	在学徴集延期願ニ関スル件	写真(東部第六部隊物品販売所前、中央藤森登茂久少尉、左田中一彦軍曹)	書翰(本会々員高木多嘉雄君の住所、職業並びに、改姓名の有無等の件ご回答依頼)	写真(軍服姿の個人写真・集合写真)	写真(某所屋外での記念集合写真、学生服姿)	写真(博多の旅宿にて)	前橋陸軍予備士官学校校歌	遺書	「兄関係」(クリアーファイル)	『前橋陸軍予備士官学校』(写真アルバム)	『経済政策2』(ノート)
昭和一四年三月三日			昭和一八年二月一八日	昭和一九年四月	昭和二九年一〇月一日			昭和一九年下旬				昭和一九年七月	
東京府立第九中学校 配属将校陸軍歩兵大佐			東京市王子区長		早稲田大学校友会				校軍楽隊 作詞第六期生浅田量治、作曲陸軍戸山学			高木多嘉雄	高木多嘉雄
高木多嘉雄			高木多嘉雄		高木磯吉								
1通	1点	1枚	1通	1枚	1枚	3枚	1枚	1枚	1枚	5枚	1冊	1冊	1冊
封筒付、別紙「積立金決算報告書(壹百八拾八名分)」(昭和14年3月3日付、保証人各位宛、東京府立第九中学校)1枚あり	整理用の封筒		封筒付(裏書には東京市王子区役所)、他に「徴集延期証書」(戸主磯吉長男高木多嘉雄宛、東京連隊区徴兵署)1枚同封	軍服姿の集合写真	はがき	個人写真2枚(全身1枚、上半身のみ1枚)、集合写真1枚		他に、名前のメモ書あり	校歌1〜3番まで、歌詞のみ、楽譜なし			写真25枚	

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21 9	21 8	21 7	21 6	21 5	21 4	21 3	21 2
写真(泰納)／前橋陸軍予備士官学校／相馬原会)	書翰(ドキュメンタリードラマ「終戦記念特別番組。39年目の夏―ある出陣学徒たちの終戦―、前橋陸軍予備士官学校卒業生の記録」の放送に付お知らせ)	書翰(除幕式に招待されたき旨など)	「前橋陸軍予備士官学校慰霊碑建立除幕式・慰霊祭 御遺族招待券」	書翰(慰霊巡拝の件など)	『鎮魂録』(第4回合祀慰霊祭、ビデオテープ)	勲六等单光旭日章	日章旗	日章旗	勅諭	(ノート断簡)	学校報部隊幹部訓練施行表	早稲田大学政治経済学部学徒国民貯蓄組合規約	英練(二の4、5)・英練(二の6、7、8)	第三大隊第六中隊第三小队人員表、他	第一学年・第二学年野営演習計画	実施予定教育計画
平成一七年五月二六日				平成八年四月二〇日											昭和一七年	(昭和)年三月六日
	前橋陸軍予備士官学校相馬原会		相馬原会慰霊碑建立実行委員会	寺門喜弘(前橋陸軍予備士官学校第十一期生)	制作相馬原会、製作協力株式会社MK企画				高木多嘉雄写						早稲田大学々部	第二区隊高木多嘉雄
	新谷照	谷照	御遺族名新	新谷照												
2枚	1通	1通	1枚	1通	1本	1個	1旗	1旗	4枚	15枚	1綴	1綴	2枚	1綴	1綴	1綴
カラー写真	はがき			封筒付	箱付(表に前橋陸軍予備士官学校慰霊碑の写真あり)、VHS	勲章、箱付	寄せ書きあり	きあり	祝入宮高木多嘉君、寄せ書きあり	コピー			英語の練習問題			破損